

口頭発表の方法

1. 種別

次の2種類のどちらかを発表者が選択して申し込む。

- ・第1種講演<講演5分, 質疑2分>:新しい研究成果の要点・概要等を発表する。
- ・第2種講演<講演10分, 質疑5分>:よくまとまった段階の研究成果を発表し討論する。予稿は明確に構成記述され,必ず1章を設けて主張の明らかなまとめまたは結論が明記されたものでなければならない。講演企画委員会は予稿をチェックし,第1種に

振り替えることがある。この場合,委員会は申込者に連絡する。

なお持ち時間は,申込総数によっては上記よりも短くなることもあり得る。

2. 申込件数の制限

1人(連名の場合,同一講演者)で申し込める口頭発表は1件に限る。ただし,独立したテーマの研究に限り,第1種講演1件の追加は認める。

スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッション

「いろいろな QBO (準二年振動)」

趣旨:1961年に赤道下部成層圏の東西風の準二年的振動(guasi-biennial oscillation=QBO)が発見されて以来,成層圏 QBO は多くの気象屋を魅きつけてきました。赤道波の上方伝播と平均流の相互作用として理解され,理論的・観測的・実験的研究が進みました。しかし,最近いろいろな側面から QBO または BO が注目を集めています。一例が南極オゾンホールに見られるきれいな QBO。1987年は最大の深まりをみせ,88年はかなり浅くなり89年は87年並に発達しました。90年は浅くなるのでしょうか。また,QBOの位相で分けると成層圏から対流圏まで,大気循環と太陽活動に関連がありそうだという研究も注目されています。

QBO は成層圏だけでなく対流圏や海洋にも見られま

す。ENSO は4~5年の周期のように見えますが最近 BO モードが基本ではないかといったこともいわれています。モンスーンにも BO が見られますし,CO₂の量にも BO が見えます。

このような気候システムに見られるいろいろな QBO または BO について一堂に集めて,スペシャル・セッションを開きたいと思います。もちろん元祖成層圏 QBO に関連した研究(赤道波やモデリング等)も含みます。成層圏から海洋まで QBO というキーワードでいろいろな分野の人が集まり,将来の研究発展に役立てばと期待します。

呼掛人:田中 浩(名大)

安成哲三(筑波大)

小寺邦彦(気象研)

山崎孝治(気象研)